

めあて

古典芸能でもある謡曲・仕舞を体験することにより、興味・関心を深め伝統文化に親しもうとする心情を育てる。

対象：クラス単位・学年単位

対象

小4

小5

小6

中1

中2

ようきよく 謡曲・仕舞



授業の流れ（基本プラン） 1～2限（通常の授業時間）

あいさつ（講師紹介）

実演

講話

体験

質問

◆実演◆

しまい ゆや 謡曲 つるかめ
仕舞「熊野」 謡曲「鶴亀」等

《生の演技を観ることで魅力を感じさせる》

◆講話◆

能楽の歴史について、狂言、囃子、笛、能面について

《歴史的背景などについて話をし、身近なものであることに気づいてもらう》

◆体験◆

扇を使い舞う ゆや
「熊野」

《自由に触れる、表現することで謡曲に対する関心を高める》

◆質問◆

体験したことでの疑問、知りたいこと等を質問してみましょう

謡曲・仕舞の成り立ちは・・・
 能・狂言は、室町時代に観阿弥（平成
 25年現在生誕680年）世阿弥（平
 成25年現在生誕650年）の親子に
 よって大成されました。
 能の台本である「謡本」より謡曲、仕
 舞を稽古するようになり、現在曲目
 は、約200曲あります。
 能はシテ方（中心人物）、ワキ方（シ
 テの相手役）、囃子方（笛方、小鼓方、
 大鼓方、太鼓方などの楽器演奏者）狂
 言方（前半と後半の繋ぎ役）の役者が
 一堂に集まり演じる総合芸能です。

講 話



実 演



体 験



☆実施校からの声☆

- ・初めての経験に驚き、興味を持って取り組んでいた。
- ・今まで知識だけの理解であった「能の世界」がこの体験により、かなり具体的で現実なものになり、強い印象が残ったようです。